

## 産業界がリードする我が国のイノベーションシステム構築

### 1. 現状認識

失われた 20 年という言葉に象徴されるように、長期間、我が国の経済成長は停滞していました。国内のデフレ、新興国市場の成長から、企業はイノベーションを口では唱えていましたが、実際の行動の中心は海外市場と生産拠点の海外移転、コストダウンに主眼が置かれていたようです。

この間、我が国のイノベーションは自動車業界の省エネ対策等を除けばこれといった成果は無いように見受けられます。災害ロボット、お掃除ロボット、タブレット等、欧米企業に先を越される例が多くなっています。これらに使われたシーズは、世界最先端の技術というわけでもありません。これらの例から見ても分かるように、我が国にイノベーションに必要なニーズ、シーズがなかったわけではなく、我が国でニーズとシーズが結び付かなかったことにあります。

### 2. 連携が悪い我が国のイノベーションシステム

2014 年に入って経済産業省をはじめ政府の施策を見ると、産総研、理研等の公的研究機関の橋渡し機能とベンチャーの起業・育成の強化を進めつつあるようです。橋渡しの必要性は、我が国の研究開発の各段階がばらばらの状態、あるいは結びつきが弱い状態になっており、ベンチャー、中小企業の活性化施策は、企業の低いイノベーション取り組み意欲に起因しているという判断の裏返しと考えられます。

海外市場の不透明感が増す中、課題先進国である我が国で、課題の後ろにあるニーズを抽出し、シーズと結びつけられる国全体のイノベーションシステムが必要とされていると考えられます。

### 3. 産業界がリードするイノベーションシステムへ

政府は、ここ数年、我が国の科学技術政策は出口志向のイノベーションに切り替えたいとしています。そこでの改善のキーは情報、人材の良流動化であると考えられます。

要は、企業内のチェーンリンクドモデルを、我が国の研究開発システム全体に広げることです。

最も市場の近くにいる産業界、企業がニーズを抽出し、研究の各段階に必要な技術ニーズを発信し、これに応えるシステムを構築することができれば、技術立国、イノベーション立国も可能となります。ものづくり立国の復活も見えてきます。

情報発信は国際競争の観点から技術情報漏えいに繋がるリスクもありますが、圧倒的な開発スピードと技術完成度で凌駕することでカバーすれば良いと考えられます。

現状、研究の各段階の連携が悪いとしても、基礎、応用、開発、生産のモノづくりの 4 段階が揃う我が国はそれが可能な国です。

**NBCI は、産業界がリードするナショナルイノベーションシステムの検討を始めました。**